

# 日進市一般廃棄物処理基本計画（令和3年度見直し版）（案）のあらまし

## 1 基本方針

### 【基本方針1：ごみの排出抑制に向けた取り組みの推進】

廃棄物は排出者が責任をもって処理することを前提としてとして、市民一人ひとりの購買～消費～廃棄、事業者それぞれの生産～販売～廃棄といった一連の経済活動の中から、総合的なごみの発生抑制を推進していく。

### 【基本方針2：資源化・リサイクルの推進】

すべての市民、事業者が、無理なく継続できる円滑な資源回収の体制整備に努めるとともに、環境負荷の低減を目的とした資源化・リサイクルを推進し、**焼却処理する量を削減する。**

### 【基本方針3：適正な処理体制の構築】

循環型社会の形成を踏まえた運搬収集・中間処理・最終処分の各段階での、環境保全への配慮や効率化に向けた最適な処理・処分体制を構築する。

また、市民・事業者・行政がそれぞれの役割と責任を果たし、それらに係る施策や事業への積極的な参加を促し、互いに協力していく体制の整備を推進する。

## 2 目標値及び今後5年間の重点施策

### 【目標1】年間ごみ量（燃えるごみ＋粗大ごみ）の削減

令和2年度実績値：21,620 t（家庭系 16,357 t 事業系 5,263 t）



令和8年度目標値：19,970 t（家庭系 14,718 t 事業系 5,252 t）

- 【重点施策】①水分削減：○水分削減の啓発 ○生ごみ処理機購入補助  
②食品ロス削減：○食品の有効活用等の啓発 ○フードドライブの周知  
③紙リサイクル：○団体回収の情報発信 ○紙リサイクルの啓発・促進  
④その他：○プラスチックリサイクルの促進

### 【目標2】1人1日あたり家庭系ごみ量削減

#### 【目標2-1】1人1日あたり家庭系ごみ量（燃えるごみ＋粗大ごみ）の削減

令和2年度実績値：484 g/人・日 ➡ 令和8年度目標値：415 g/人・日

#### 【目標2-2】1人1日あたり家庭系燃えるごみ量の削減（新設）

令和2年度実績値：448 g/人・日 ➡ 令和8年度目標値：379 g/人・日

- 【重点施策】①水分削減：○水分削減の啓発 ○生ごみ処理機購入補助  
②食品ロス削減：○食品の有効活用等の啓発 ○フードドライブの周知  
③紙リサイクル：○団体回収の情報発信 ○紙類の資源回収  
④その他：○プラスチックリサイクルの促進

### 【目標3】燃えるごみへのリサイクル可能品目混入率の削減

令和8年度目標値：11.1%削減

- 【重点施策】①紙リサイクル：○団体回収の情報発信 ○紙類の資源回収  
②プラスチックリサイクル：○プラスチック製品リサイクル

### 【目標4】事業系ごみの削減（新設）

令和8年度目標値：221 t の削減

- 【重点施策】①食品ロス削減の啓発：○事業者への食品ロス削減への周知啓発  
②紙リサイクルの啓発：○事業者への紙リサイクルへの周知啓発

### 【目標5】生活排水処理率の向上

令和2年度実績値：91.3% ➡ 令和8年度目標値：95.0%

- 【継続施策】①公共下水道の普及  
②単独浄化槽から合併浄化槽への転換推進



### 3 計画の見直しの背景と目的

現在、我が国では、気候変動、海洋プラスチックごみや生物多様性の損失、食品ロスの削減などの環境問題への対応も求められており、これら社会情勢の変化は廃棄物問題と密接に関係する課題であり、持続可能な開発目標（SDGs）を踏まえ、環境的側面、経済的側面、社会的側面を統合的に向上させ循環型社会の形成を推進することが求められています。

このような中で、本市では、平成23年度に15カ年計画である日進市一般廃棄物処理基本計画を策定し、ごみの適切な処理、ごみの減量や再生利用の推進等に向けて、市民や事業者の協力のもと、様々な施策に取り組み、モノを大切に作る循環型社会の先進都市を目指してきました。

令和3年度に、廃棄物に関する現状や令和2年度に実施したアンケート調査を踏まえて2回目の中間見直しを行いました。目標を達成することにより、年間およそ1億円のごみ処理経費削減が見込まれます。目標達成に向けて、更なるごみの減量、再生利用の促進、最終処分（埋立）量の低減等に取り組んでいきましょう。

### 4 日進市のこの5年間の推移

	平成28年度	(変化)	令和2年度	H28→R2
<b>■人口及び世帯数</b>				
①人口	89,202人	↑	92,562人	3.8%増加
②世帯数	35,692世帯	↑	38,239世帯	7.1%増加
<b>■ごみ量</b>				
①家庭系ごみ量	16,160t	↑	16,357t	1.2%増加
②事業系ごみ量	5,587t	↓	5,263t	5.8%減少
③1人1日当たり家庭系ごみ量	496g/人・日	↓	484g/人・日	2.4%減少
④1人1日当たり家庭系燃えるごみ量	439g/人・日	↑	448g/人・日	2.1%増加
<b>■リサイクル</b>				
①資源収集量	7,168t	↓	6,030t	15.9%減少
②リサイクル率	26.6%	↓	24.4%	2.2%減少
<b>■ごみ処理費</b>				
①1人当たり年間ごみ処理経費	9,418円/人	↑	9,644円/人	2.4%増加

### 5 アンケート調査の主な結果

- 年齢が低くなるほど、分別や収集日を変更したことについて、「知らなかった」の割合が高くなる傾向にあります。ごみの適切な排出・分別に向け、様々な機会による周知が必要となります。
- 「リサイクルマークを確認して購入している」の割合が、他の取り組みに比べ低くなっています。プラスチック資源循環促進法の成立などの周知も含め、プラスチックのリサイクルを促進していくことが必要です。
- 三角コーナーでの水切りをしている割合は高くなっているものの、「生ごみは出す前に、さらにもう一絞りしている」の割合が低くなっています。生ごみの水分の削減方法の啓発を行い、更なるごみ量の削減に取り組んでいくことが必要です。
- 「冷蔵庫の中身を確認し、買いすぎない」などの割合は高くなっているものの、「野菜の皮を料理するなど、食材を無駄なく使う」、「フードドライブに協力している」の割合は低く、食品の有効活用等の啓発を行うなど、食品ロスの削減に努めていく必要があります。
- 「広報」の割合が全体では高くなっているものの、若い年齢層では、「ホームページ」の割合が高くなっています。今後は、多くの市民への周知・啓発のため、様々な媒体を活用した情報発信が必要となります。
- 多くの市民が、普段の生活の中で、排水対策を行っておりますが、「環境への負荷が少ない洗剤を使う」などの対策を取っている市民は少なく、水質改善の面からも、更なる生活排水への対策を行っていく必要があります。

